

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 057	提案機関名 自然環境保全センター自然再生企画課
要望問題名 溪流生態系のモニタリング手法開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 第2期丹沢大山自然再生計画では、各種事業のモニタリング結果や実施状況を踏まえて、溪流生態系の保全・手法の検討を行うこととしている。溪畔林整備事業や土壌保全対策等が進む中、事業の結果、溪流生態系がどのように改善されているのかを評価する指標が必要となる。 そこで、既に行われている各種調査結果等を整理するとともに、必要に応じて追加調査を行い、溪流生態系全体(水中、陸上含めて)の評価手法を確立(指標の選定等)する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備 考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対 応 区 分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 魚類等による溪流環境の評価手法の開発			
対応の内容等 平成24年度から内水面試験場では溪畔林を整備した河川において、その効果を評価する手法の技術開発とともに、経年変化を把握するモニタリング調査を開始しました。 東丹沢の3河川および西丹沢の7河川を対象として、そこに生息する魚類、水生昆虫類、樹木からの落下昆虫類などを調査し、「溪流環境」と「生き物」との関係に着目することで、溪畔林の整備効果を評価できる指標を明らかにしたいと考えています。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考			